



VOL.5
2020.3.10 発行



市川 大志
常務取締役

南星キャリアックス株式会社で、現在常務取締役を務めている市川大志さん。これまでのキャリアのなかで心に残っている仕事や苦い思い出、そして現在の新たな取り組みとこの先の目標をお伺いしました。

——これまでに携わったなかで、印象に残るお仕事についてお聞かせください。

知立営業所にいた頃にお客様が新規の仕事を立ち上げるということで、その工場内の物流立ち上げに携わりました。まずスタート当初は、製品を構内に収める時点で勝手がわからず、製品があふれかえるなかでのピッキングはかなり手間取った記憶があります。ピッキングがスムーズにいけば夕方には終わるような作業が遅々として進まず、夜中までかかってしまいました。もちろんそれは昔の話で、現在はそんな時間まで作業することはありません。

——作業の遅れはどのように解決されたのでしょうか。

製品の把握自体を進めながら、整理方法も「より分かりやすいもの」にと、試行錯誤して少しずつ改善していきました。作業員全員で協力して改善に努めたこともあり、1か月ほど経過した頃にはかなり環境も整いました。作業員同士も仲間意識が強くなったため、苦勞した甲斐があったと思います。

——前職を含めた仕事経験のなかで、最も大きな失敗体験をお聞かせください。

南星キャリアックスに入社する以前は南星キャリアックスのお客様の物流子会社で2年間修行しており、そのさらに以前には南星キャリアックスの半田営業所で1年間アルバイトをしていました。実はそのころに、大きな事故を起こしてしまったことがあ

ります。お客様の納入先でフォークリフトを使用して納品作業をしていたのですが、突然フォークリフトが止まってしまいました。後から冷静になって考えれば、燃料を補給したら解決するトラブルです。

しかし当時は経験も知識も乏しく、焦っていたこともあり、停止したリフトを急いで移動させる為、新たに別のリフトを使い、停止したリフトを牽引して移動させようと考えました。それは前代未聞の解決方法で、普通なら決してそんなやり方ではありません。動かないリフトを無理に引っ張ったことで停止しているリフトの爪の先にあった1トン以上あるコンテナが倒れ、なかに入っていた塗料が大量にもれ出してしまいました。

——どのように対処されたのでしょうか。

まずは塗料がそれ以上流出しないように、周りにシートを敷

き詰めたうえでコンテナを元に戻しました。周りにいた人がみな手を差し伸べてくれたおかげで、なんとかその場を収集することができましたが、私自身はもうこの身を辞しておわびするしかないと思っていましたね。大変な問題ですし、当然大クレームにもなり、当時の社長も謝罪にかけつけました。多くの人を巻き込むなかで「辞めませ」と伝えたのですが、「お前が辞めたところでしょうがない」といわれてしまつて。今なら新人が大きなミス の責任を取つて辞めるよりも、それを取り返すほどの利益を会社に返すほうが大切だと分かります。

——今後の展望をお聞かせください。

いくつかの新たな取り組みを実施してきました。従業員全員へ誕生日プレゼントとしてカタログギフトを贈ることにした。プライベートの怪我や病氣

でも治療代が出る保険制度を完備したりと福利厚生を充実させてきました。他には、採用活動として、これまで会社のホームページで簡単に情報を載せていただけだった採用欄を専用のサイトに分離して、そこから情報を得られ、かつ直接応募もできるようにしました。他社と比べてもあまり意味はないかもしれませんが、同業他社さんから話に聞くほどのひどい状況になく、南星キャリアックスでは人材が集まってきてくれていると思います。そういったことはさまざまな改善の成果でもあるのかなと思っています。

今後はリーダーを務められる人材を育てていきたい。現在南星キャリアックスは65期にありますが、個人的には100期の目標にしている、その歴史を多くの従業員のみならずともにつくっていくことが将来的な展望の一つです。その為にも一緒に会社を経営・運営してくれ

る人材を育てていきたいと思っています。何より、一人ひとりがハッピーで、「この会社で働いていて良かったな」と思ってもらえるような会社の実現を目指します。

今後も仕事への情熱を胸に、輝き続ける市川さんの躍進は続いていくことでしょう。

